

土木事業

Civil Engineering

社会インフラを支える土木事業では道路、鉄道、河川、上下水道、エネルギー関連施設、加えて災害復旧事業など、多様な大型インフラ整備を手がけています。技術開発やDXの活用、省力化・省人化も進めながら、人材育成を含む基盤強化にも力を入れ、ものづくりを通じた社会課題の解決に取り組み、持続的な成長を目指します。

令和6年能登半島地震に伴う地すべり(清水・仁江)緊急復旧工事
地域の孤立解消を目的として、応急道路を構築



なかにし たかお
中西 隆夫

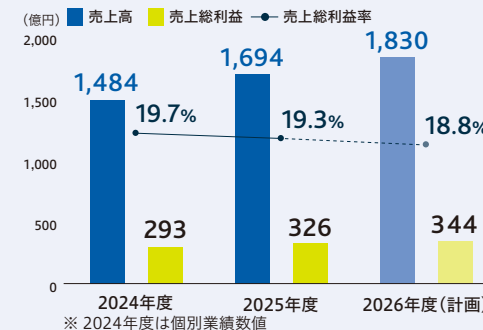
インフロニア・ホールディングス株式会社
執行役 土木事業セグメント担当

執行役メッセージ

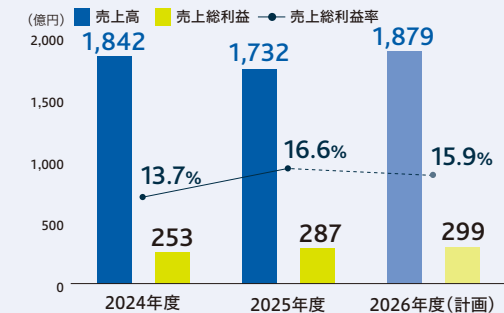
強みをもつ分野での技術力、マネジメント力を強化し、競争力を高め、さらなる成長を目指します。加えて、新たな成長領域への挑戦を加速します。また、大型案件への取り組みや資機材の共同活用を通じて生産性を高め、収益力の向上を実現していきます。技術に裏付けされた現場マネジメント力を強化し、持続的な成長と社会への価値提供を目指してまいります。

業績の推移

前田建設 連結



三井住友建設 連結



SWOT分析

Strength 強み

- 高度な技術力と豊富な施工実績
- 原価管理のDX化による高い収益性
- ホールディングス体制による総合力

Weakness 弱み

- 建設業界全体における労働力不足
- 技術者の高齢化と技術継承の停滞

Opportunity 機会

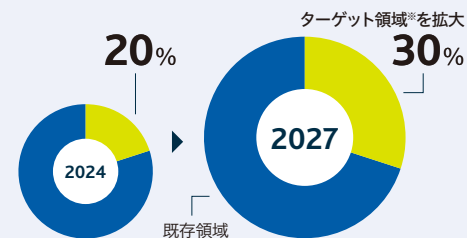
- 防衛力強化に伴う関連施設整備の需要拡大
- インフラ更新・老朽化対策需要
- 海外インフラ需要の拡大
- エネルギー需要の拡大

Threat 脅威

- 資機材価格の高騰
- 労働者不足による労務費高騰

成長分野ポートフォリオ

受注高比率(既存領域 / ターゲット領域)



※ターゲット領域:防衛関連・陸上風力発電・水インフラ事業・原子力関係・GXエネルギー関連・インフラ再生関連

トンネル・シールド、橋梁、大規模更新といった、各社のコア技術を高度化すると共に、経営資源の相互補完による競争優位性の強化を進め、既存領域の拡大を図ります。

加えてエネルギー分野や、ウォーターPPPに伴う上下水道インフラの整備、国土強靱化といった重点領域への取り組みを進め、シェア拡大を図ります。

2025年度の主な取り組みと今後の展望

三井住友建設

老朽橋更新を支えるPCaPC床版による省力化・短期施工技术の展開

橋梁更新で用いられるPCaPC※床版において、材料由来のCO₂排出量を約90%削減できる「ゼロセメント型PCaPC床版」を確立し、環境認証ラベル(EPD)を取得しました。ポルトランドセメントを使用しない「サスティンクリート®」を採用しつつ、早期強度と耐久性を確保しています。工場製作による品質安定性と急速施工の特長を維持し、橋梁床版更新の脱炭素化を具体的に推進する技術として、今後の社会インフラ更新に貢献します。

※プレキャストプレストレストコンクリート

新たな担い手となる若手人材の育成

土木業界においては、35～45歳が少ない一方で若手が多い人員構成であることから、将来の中核を担う若手人材の早期育成が重要な課題となっています。三井住友建設では2017年度より新入社員教育で実技合宿を導入しており、箱桁橋を5人1組に分かれて製作します。自分たちで施工計画の立案から、仮設の構造計算、図面の作成、安全・品質・工程・出来形管理、型枠支保工・足場・鉄筋・型枠の組立、コンクリートの打設、型枠解体までの作業を行い、約10週間で一つの構造物を造り上げます。実技合宿を通して失敗を繰り返しながらも仲間と力を合わせて構造物を造り上げた喜び(成功体験)により、失敗を恐れないチャレンジ精神と折れない心を育成します。



実技合宿実施状況①

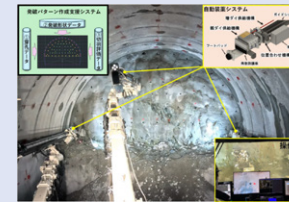


実技合宿実施状況②

前田建設

トンネル施工におけるDX・自動化技術の実証・展開

土木現場の生産性と安全性の向上を目的として、トンネル分野におけるDXを本格展開しました。福島県発注の山岳トンネル工事では、「3ブーム自動装薬専用機」とAIを活用した発破パターン作成支援システムを連携させた実証施工を行い、危険を伴う装



3ブーム自動装薬専用機 実証施工

薬作業において、切羽直下への作業員の立入りゼロを達成しました。本取り組みは、安全性の向上と熟練技能に依存しない施工プロセスの実現を両立する先進事例として、全国展開が期待されています。今後も、DX・自動化技術を自社活用にとどめず、外販や技術支援を通じて同業他社へ展開し、建設業界の課題解決に貢献していきます。さらに、三井住友建設と連携し、技術開発を一層推進していきます。

PFAS対策への独自技術の展開拡大

PFAS問題への対応として、当社が開発した吸着処理システム「De-POP's ION®」による浄化処理を拡大しています。2025年9月には、東京工科大学八王子キャンパスでのPFOSを含む泡消火剤漏洩事案に迅速に対応し、早期の環境回復に貢献しました。さらに、2026年2月には沖縄県庁舎での浄化処理を完了し、再溶出防止を含む総合対策を実現しました。今後も、自治体や国の環境対策需要に応え、持続可能な社会基盤整備に貢献していきます。



東京工科大学でのPFAS浄化処理

従業員の声



てらかど なおゆき
寺門 直之

三井住友建設株式会社
北海道支店
ベンケオタソイ川橋作業所 所長

三井住友建設に入社後、施工管理及び橋梁設計業務を経験し、現在は北海道上川郡新得町で新設のPC橋梁工事に従事しています。本工事は、道東自動車道の4車線化工事の一環で供用線に近接した施工となっています。着工時から供用線へ影響を与えないようにクレーンブームにGPSを設置し既設構造物との接触を防ぐなど様々な対策を行い、無事故で施工を進めています。インフロニアグループに仲間入りし、今後は新しい事業にも挑戦したいと考えています。